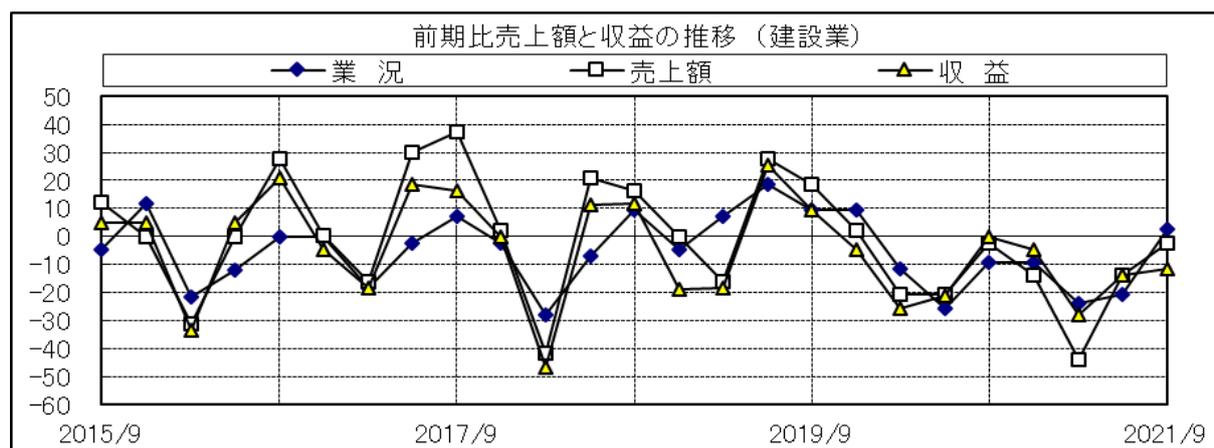


建設業 43 企業（回答率 100.00%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
業 況	-23.7	-20.9	2.4	-9.3
売上額	-44.1	-14.0	-2.5	-18.5
収 益	-27.9	-13.9	-11.6	-25.6

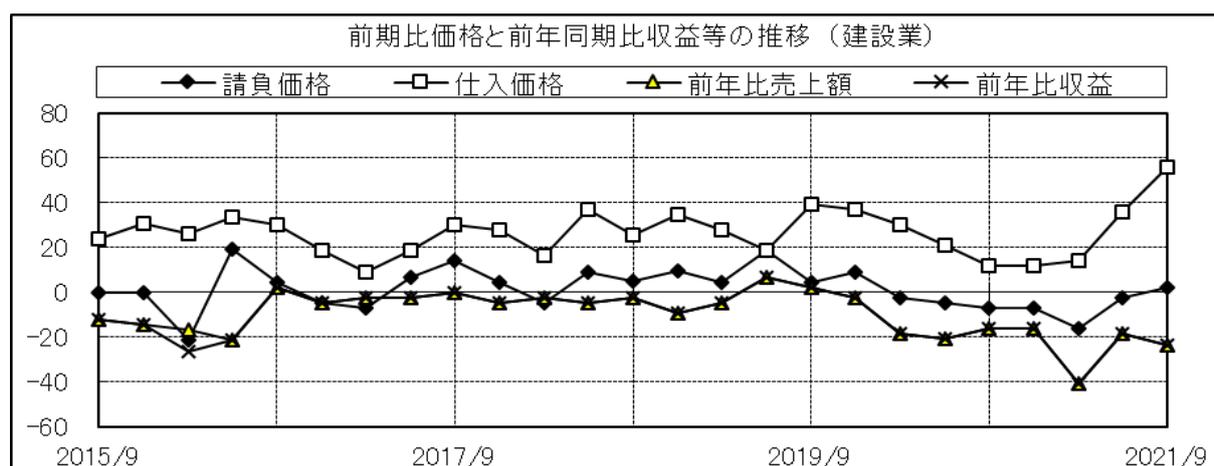
今期の業況判断 D. I. は 2.4 で、前期比 23.3 ポイント上昇、前年(△9.3)比では 11.7 ポイント上昇した。地区別 D. I. の水準は高い順に、浦河が最も高く、次にえりも、同水準で静内・様似・広尾と続き、三石が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は、△2.5 で、前期比 11.5 ポイントの上昇となった。収益判断 D. I. は△11.6 で、前期比 2.3 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
請負価格	-16.2	-2.4	2.3	0.0
仕入価格	14.0	35.7	55.8	44.2

請負価格判断 D. I. は 2.3 で、前期比 4.7 ポイント上昇、前年(△7.0)比 9.3 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 55.8 で、前期比 20.1 ポイント上昇し、前年(11.7)比 44.1 ポイントの上昇となった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
残業時間	6.9	-16.3	-7.1	-0.1
人手状況	-20.9	-16.2	-23.3	-28.6

残業時間判断 D. I. は△7.1 で、前期比 9.2 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断 D. I. は△23.3 で、前期比 7.1 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

□ 設備投資の動き

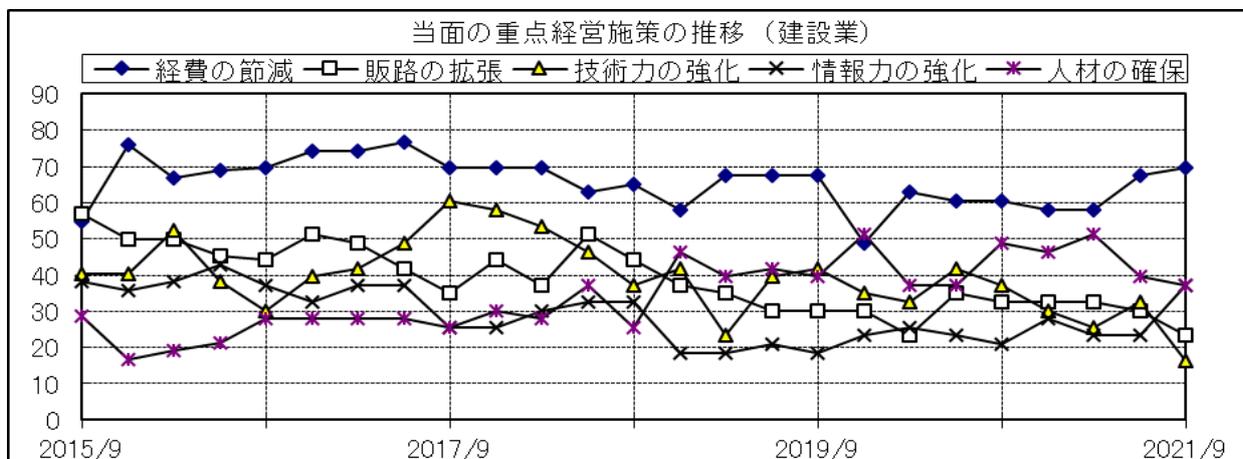
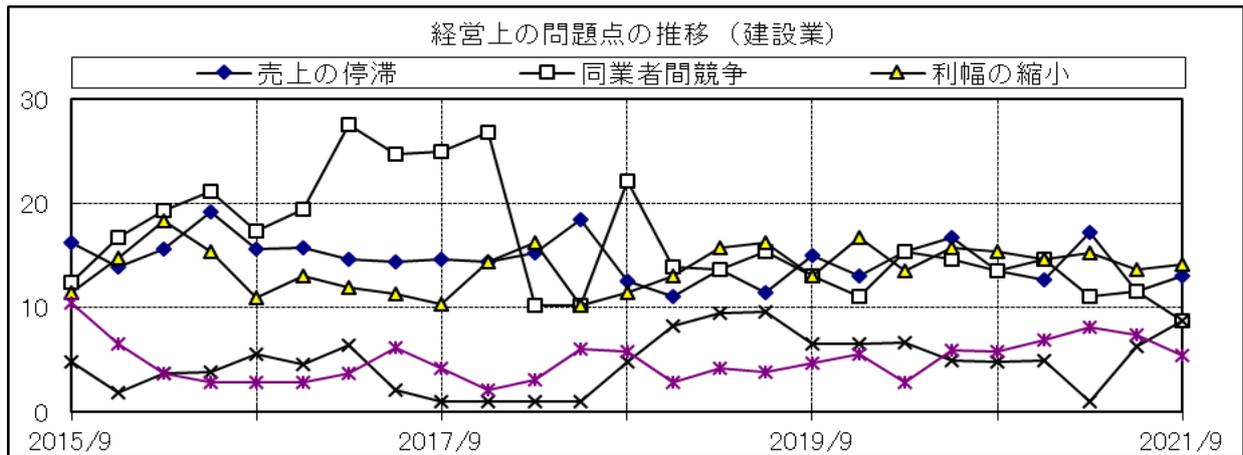
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 9.3$ で、前期(2.3)比11.6ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は25.6で、前期(20.9)比4.7ポイント上昇した。設備投資は、前期9社に対し、11社の実施となった。来期の設備投資は、6社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「材料価格上昇」が21.7%と最も多く、次に「利幅縮小」14.1%、「売上停滞減少」13.0%、「人手不足」9.8%、「同業者競合」・「人件費増加」8.7%、「下請確保難」6.5%、「地場産業衰退」5.4%、「天候不順」3.3%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が69.8%と最も多く、次に「情報力強化」・「人材確保」が37.2%、「販路拡大」23.3%、「技術力強化」16.3%、「労働条件改善」4.7%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 9.3$ と、今期比11.7ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 18.5$ と、今期比16.0ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 25.6$ と、今期比14.0ポイントの下降を見通している。

予想請負価格判断D. I. は0.0と、今期比2.3ポイントの下降を見通している。

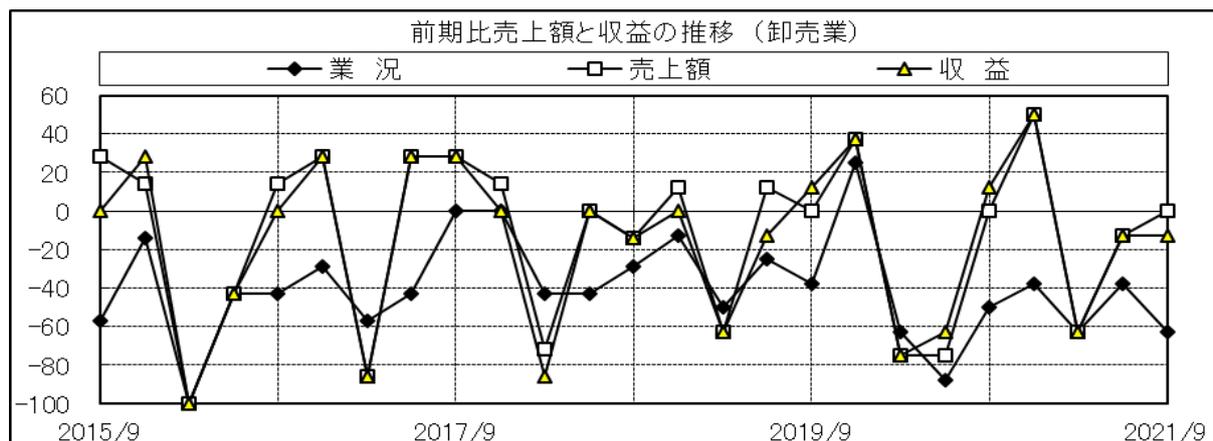
予想仕入価格判断D. I. は44.2と、今期比11.6ポイントの下降を見通している。

卸売業 8企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
業況	-62.5	-37.5	-62.5	-62.5
売上額	-62.5	-12.5	0.0	-12.5
収益	-62.5	-12.5	-12.5	-25.0

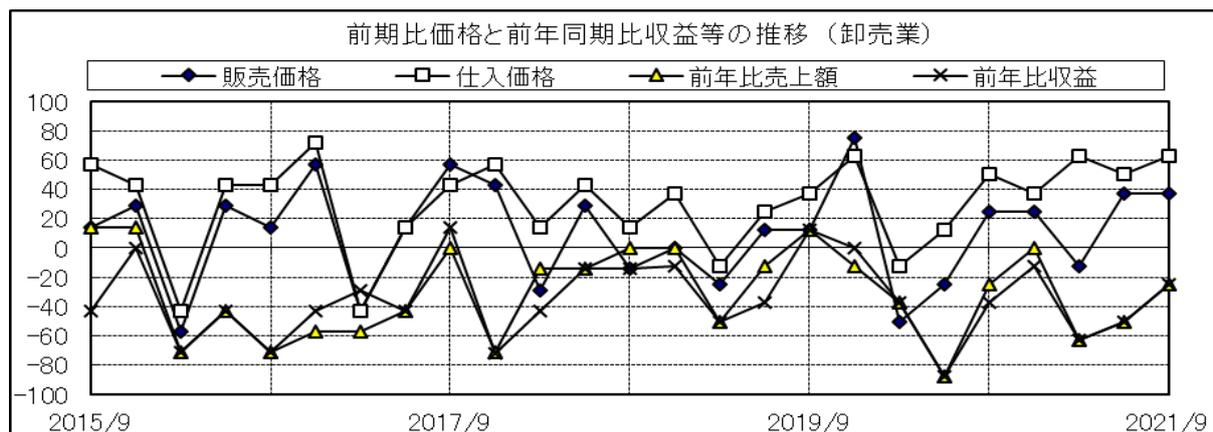
今期の業況判断 D. I. は△62.5 で、前期比 25.0 ポイント下降した。前年(△50.0)比 12.5 ポイント下降した。地区別の水準は、静内・様似地区は下降、浦河地区は横這いとなった。売上額判断 D. I. は 0.0 で、前期比 12.5 ポイント上昇した。収益判断 D. I. は△12.5 で、前期と同水準となった。



□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
販売価格	-12.5	37.5	37.5	37.5
仕入価格	62.5	50.0	62.5	50.0

販売価格判断 D. I. は 37.5 で、前期と同水準。前年(25.0)比 12.5 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 62.5 で、前期比 12.5 ポイント上昇。前年(50.0)比 12.5 ポイント上昇した。業種別では、水産業は販売価格は横這い、仕入価格は上昇した。食品業は販売、仕入価格ともに上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
残業時間	-37.5	0.0	0.0	0.0
人手状況	-25.0	0.0	0.0	0.0

残業時間判断 D. I. は 0.0 で、前期と同水準となり、残業時間の変動は無かった。

人手過不足判断 D. I. は 0.0 で前期比と同水準となり、人手不足感に変動は無かった。

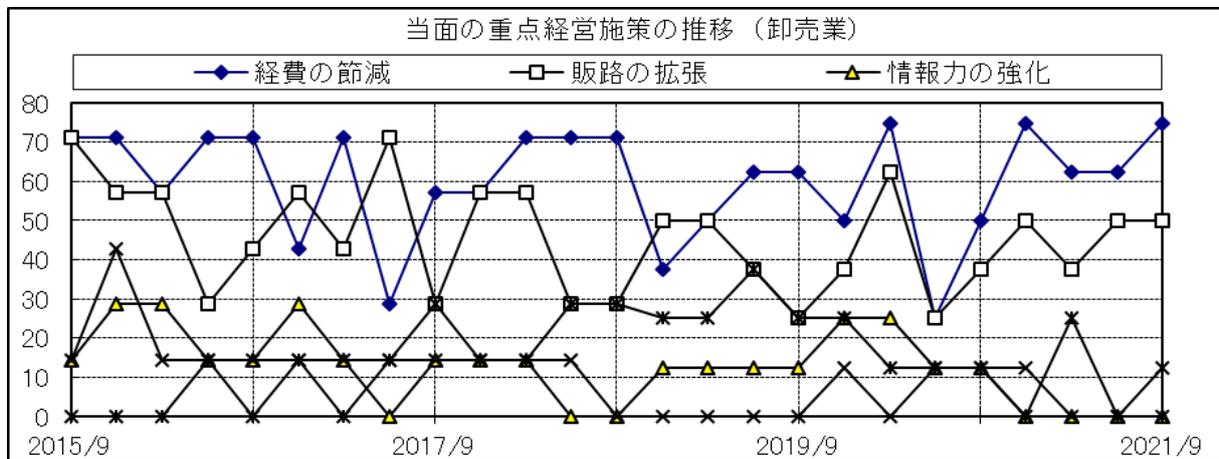
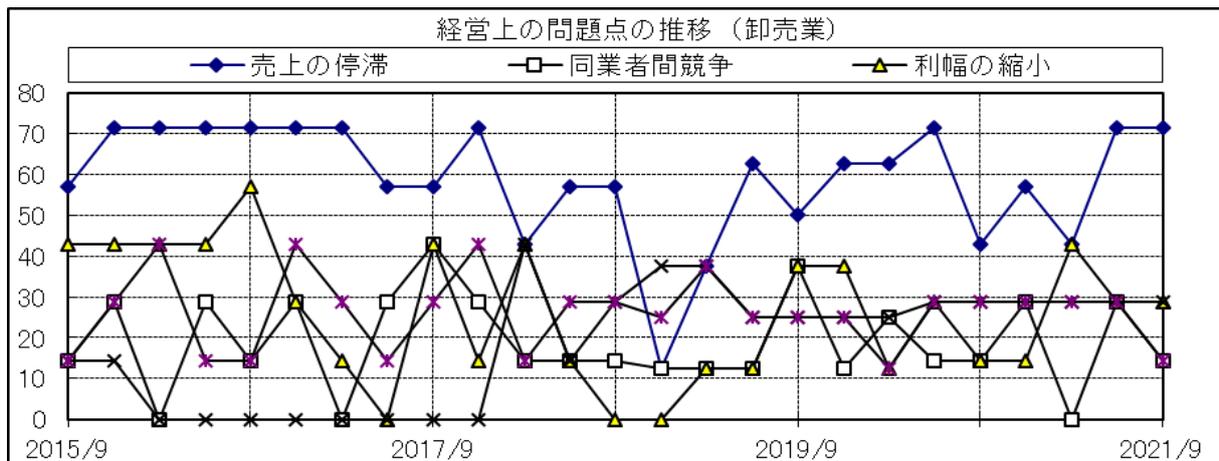
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD. I. は0.0で、前期(△12.5)比12.5ポイント上昇した。
 設備実施企業割合は25.0、前期(12.5)比12.5ポイント上昇した。設備投資は、前期1社に対し、2社の実施となった。来期の設備投資予定は0社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が71.4%と最も多く、次に「利幅縮小」・「値上要請」・「取引先減少」・「店舗老朽化」・「天候不順」が28.6%、「同業者競合」・「合理化不足」・「扱い商品陳腐化」・「販売商品不足」・「地価高騰」・「地場産業衰退」が14.3%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が75.0%と最も多く、次に「販路拡大」50.0%、「品揃え充実」25.0%と続き、「新事業開始」・「連携先確保」・「流通経路見直し」・「不動産有効活用」が12.5%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△62.5と、今期と同水準を見通している。
 予想売上額判断D. I. は△12.5と、今期比12.5ポイントの下降を見通している。
 予想収益判断D. I. は△25.0と、今期比12.5ポイントの下降を見通している。
 予想販売価格判断D. I. は37.5と、今期と同水準を見通している。
 予想仕入価格判断D. I. は50.0と、今期比12.5ポイントの下降を見通している。